世界都市サミット市長フォーラム
～　日本からも東京都、横浜市、津市などが参加　～

シンガポール事務所

１．世界都市サミット概要

OECD の調査では 2050 年までに世界人口は 70 億人から 90 億人以上へと増加し、そのうち約 70%が都市部に居住する見通しです。現代社会において都市は人々にとって不可欠な生活の場であることから、深刻化する大気汚染、交通渋滞、廃棄物管理などの課題に対応し、都市での暮らしの快適さの向上と持続可能性を確保することは、将来の我々の暮しにとって極めて重要な意味を持ちます。

７月１日から４日までシンガポールで開催された World Cities Summit（世界都市会議）2012（以下 WCS）では、「住みやすく持続可能な都市に向けた、総合的な解決ソリューション」をテーマに、都市が直面する多くの課題への対応に加え、都市がいかに生活の質を高め、より優れた発展を遂げることができるかについて、世界各地の知事・市長はじめ政策担当者、学者、金融・技術部門の専門家が一堂に会し、活発な交流が行われました。WCS との相乗効果を図り、Singapore International Water Week（シンガポール国際水週間）、Clean Enviro Summit（環境サミット）が同時開催され、世界中から 18,000 人以上の参加者が会場であるシンガポール、マリーナ・ベイ・サンズのコンベンションセンターに足を運んだとのことです。

共同開会式では、リー・シェンロン首相が、資源に恵まれずインフラ整備も遅れていた状態から短期間でアジアの拠点都市へと変貌を遂げたシンガポールの経験を語るとともに、「都市は、経済を活性化し、職を生み、安全と安心な環境を提供し、さまざまな役割をまとめて効果的なガバナンスを提供する」と述べ、６月 29 日にオープンしたばかりの「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」を例に、更に緑あふれる都市景観をはじめより質の高い生活を実現するためのまちづくりに今後もたゆまぬ努力を続けていく決意を表明しました。

開催期間	2012 年７月１日（日）～７月４日（水）
開催場所	マリーナ・ベイ・サンズ　エキスポ・ボールルーム
テーマ	住みやすく持続可能な都市づくりのための総合的なソリューション
主催	シンガポール都市生活センター（Centre for Liveable Cities Singapore） シンガポール都市再開発庁（Urban Redevelopment Authority Singapore）
主な内容	*Mayor's Forum【招待制】 *Plenary Session

	*In-Focus Sessions （中国、インド、日本、東南アジアの都市政策の現状と課題に関するセミナー） *リー・クアンユー・ワールド・シティ・プライズ（世界都市賞）・フォーラム *World Cities Summit Expo（展示会） *現場視察ツアー （シンガポール内の町づくり施策説明施設、新設植物園などの視察）
主な出席者	石原慎太郎東京都知事 前葉泰幸三重県津市長 鈴木伸哉横浜市副市長

２．Mayor’s Forum

WCS の初日に開催された Mayor’s Forum には、世界全地域から前回の倍以上となる 105 の都市、国際組織・多国籍企業幹部、有識者が参加しました。６つの分科会では世界各地のベストプラクティスを共有するとともに都市が抱える様々な課題の解決にむけ、熱のこもった議論が行われました。

世界各国から集まった参加者たち

全体会合の場で共有された議論の概略は、以下のとおりです。

〇ルールは国によって異なるが、経済振興のため、住民、起業家、コミュニティー、地域内の活動を総合的につなぎ、国家政府、企業と交渉するのは都市の重要な役割。一方、都市単独ではよい経済環境は作ることができない。土地や法制度などの国の制度・システムも重要。

〇都市は、人材育成、教育、社会統合にもっと力を注ぐべき。市民や女性の参加、企業、起業家などあらゆる人材を育成・確保し総合的な対応をとることが求められている。

〇政治やリーダーシップにビジョンと安定性・一貫性がなければよい施策を実行していくことができない。市長・リーダーに求められる役割は、マネージャー、プランナー、プログラム作り、交渉・協力と多面的・総合的である。

〇長期のビジョン・プランによって新たな時代にふさわしい考え方への転換を図る必要がある。そのためには地域でのあらゆるアイデアを汲み上げ、有効な対応を吟味することが大切。ボトムアップ（市民の関与、SNS の活用等含む）とトップダウンのバランスが求められる。そのためには、優れたリーダーと科学的データの支えが必要。例えば環境と調和した持続的な成長を図るのは都市の責務なので、ライフスタイル・消費行動を改

善するための教育をするのも行政の役割。

○計画・実施の統合性と関係者のコーディネーションが必要。民間企業の技術もパートナーとして積極的に取り入れるべき。４つのＣ（コーディネーション、コラボレーション、コミュニケーション、コミュニティ・エンゲージメント）が重要なコンセプト。

○都市は社会秩序・社会統合を図るためには最適の単位。世界的には持続可能なグリーン・エコノミーを作るためのソフト・ハード両面のアプローチが求められており、都市こそがその解決主体となりえる。都市整備のための資金をどう確保していくのかは、避けては通れない問題であり、国はその活動を資金的にもバックアップする仕組みが必要。シンガポールのように、継続した投資、プロジェクトを持続させていくことが重要。

議長を務めたリー・イーシャン国家開発省・貿易産業省担当国務大臣からは、

○正しいことを実行する勇気が大切だということが分かった。何もせずにミスをしなかったというのでは意味がない。

○地域のキャパシティは、リーダーを含めた組織の能力とパートナーシップの総合力で決まる。地域全体のコーディネート、人々の心の問題などにも向き合っていかなければならない。

○すべての経済的な問題の背景には、政治的な問題が潜んでいる。

などの総括がなされました。

自由で忌憚のない対話を促すため、入場は最小限の関係者に限定し、個々の発言者については外部に明かさないというルールのもと、トップ同士での対話を通じた交流が活発に展開されました。

Mayor’s Forum で発言する前葉津市長

議論のキーワードは「総合力の発揮」「ビジョン」「実行力」そして「持続可能性」。コンパクトシティやエコシティなどのアイデアには強い関心が注がれています。日本国内では人口減少という局面に関心が向かいがちですが、爆発的な人口増加と中間層拡大が進むアジア各国では、水・交通・住宅・産業開発などのインフラ整備を効果的に行うと同時に、どのようにして今後の成長を持続可能なものにしていくかが切実な課題となっており、そこにビジネスチャンスがあることを実感しました。

日本からは、WCS の前日に同じ会場で開催されたアジア大都市ネットワーク（ANMC）21 に出席した石原東京都知事をはじめ、前葉津市長、鈴木横浜市副市長が出席。第２セッションにおいて、東京都の行革と中小企業振興、津市の防災対策と企業誘致、横浜市のコンパクトシティや住民参加について発言し、議論に貢献しました。

次回 Mayor’s Forum は 2013 年、スペインのビルバオ市で、初めてシンガポール以外の都市で開催される予定です。

３．プレナリー・セッション

WCS の２日目は、国連開発計画総裁で前ニュージーランド首相のヘレン・クラーク氏とトミー・コー教授（シンガポール外務省特使）の対談から始まりました。クラーク氏は「環境問題を真剣に取り組むことなく、健全な経済・社会の発展は考えられない」との持論を繰り返しました。

次に「持続可能な発展～都市・水・環境」をテーマとして、パネルディスカッションが行われました。インドの都市開発相カマル・ナス氏や世界銀行のリージョナル・バイス・プレジデントであるパメラ・コックス氏などがスピーカーとして登壇し、各国の都市開発の取組や現状の問題点などについて語りました。日本からは、石原東京都知事がスピーカーとして参加しました。石原都知事の発言の概要は、以下のとおりです。

〇東京は第２次世界大戦により、焼け野原となったが見事に復興した。しかし、秩序のない開発が行われたため、都市整備に苦労している。
〇今から約 30 年前、東京への一極集中を解消するため、筑波研究学園都市が造られた。筑波は人工的に造られた新しい都市であり、娯楽施設などが無かったため、当初は自殺者が絶えなかった。都市には施設や機能の蓄積が必要である。
〇東京と大阪は約 500ｋｍ離れているが、この間をリニアモーターカーによって約１時間で結ぶことができれば、都市機能を分散させ、世界に例のない大都市圏をつくることができる。

プレナリー・セッションは、入場自由であったことから、非常に多くの参加者があり、著名なスピーカーの発言に、直接耳を傾けることができました。

４．リー・クアンユー・ワールド・シティ・プライズ・フォーラム

リー・クアンユー・ワールド・シティ・プライズは、活力があり、かつ、持続可能な都市を創造した功績をたたえる賞です。今年はニューヨーク市が受賞しましたが、この他にも有力な候補として残った６つの都市がありました。

インドのアフマダバード、スエーデンのマルメー、デンマークのコペンハーゲン、カナダのバンクーバー、オーストラリアのブリスベン、南アフリカのケープタウンです。これらの都市による環境問題に対する独自の取組について、発表がありました。

例えば、アフマダバードでは埋立地にウオーターフロントのレクリエーション区域を設けたことや、ブリスベンでは道路など交通インフラとしてだけではなくレジャーや他の目的のためにも使える区域として提供したことなどがあります。

プレゼンテーションにあたり、スピーカーたちは政策が成功した結果よりもいかに課題に挑戦してきたかに焦点をあてていたことが印象的でした。

５．Japan In-Focus Forum

WCS の３日目には、政府関係者や有識者による In-Focus Forum が開催されました。これは、日本、中国、インド、東南アジアの４か国・地域における新たな都市プロジェクトや産業政策、産業の動向などを見出すための意見討論会です。

日本は依然として GDP 世界第３位の経済大国で、最先端技術の集約国です。また、最近はエネルギー政策の転換を迫られ、再生エネルギー分野で新たな可能性を模索しています。さらに、東日本大震災からの復興に向けた事業は、一層の発展と投資チャンスを生み出すと考えられています。これらの理由から、日本に焦点を当てた Japan In-Focus Forum は、世界各国からの参加者に、円高、国際市場での競争力確保など、現在日本が抱える課題に対する日本の政府関係者やコンサルタントの知見を共有し、新たなコラボレーションの可能性を感じていただくことが主眼となりました。

当日は、横浜市から鈴木伸哉副市長、東京都から高瀬保参与が出席しました。東京都・横浜市からは、共に地域から日本全体を元気にしていくためのプランの紹介がありました。横浜市では、新興国が現在直面している交通渋滞や公害の問題を乗り越えてきた経験があり、これらのソリューションを提供できると考えています。

さて、本フォーラムにおいては、登壇者が共通して日本の問題と見なしている事象に、下記の５つが日本の直面する課題として取り上げられました。

〇デフレーション
〇国の債務、財政問題
〇少子高齢化
〇東日本大震災からの復興および原発問題
〇円高の進行

このうち、ほとんどの登壇者が、少子高齢化は、今後、多くの都市が直面する問題となると口を揃えました。また、エネルギー資源の枯渇への対応だけでなく、人口が都市部に集中することで、ごみ処理などの環境問題も近い将来多くの都市で課題となると考えられています。

日本は世界に先んじて少子高齢化やエネルギー資源の問題に向き合い、これらの問題に対処していかなければなりません。さらに、住民の省エネ、リサイクル意識は高く、豊富なリサイクル技術でごみ処理問題に取り組んでいます。日本は、これを大きなチャンスと捉え、官民が連携してこれらの課題に向き合い、世界に先駆けてスマートシティを構築するなど、今後、世界に向けてその経験を発信していくべきとの議論が展開されました。

６．World Cities Summit エキスポ

エキスポ会場では、28 都市・130 企業から最先端の技術や事例が展示・紹介されました。各国企業や団体で構成される国別パビリオンとしてはシンガポールのみでしたが、国や地方自治体単独では、サウジアラビアやコペンハーゲン市（デンマーク）、ビルバオ市（スペイン）などのブースが出展しました。また、日本からは数社企業に加えて、東京都が主催する ANMC21 も参加して PR を行いました。

都市のブースでは、コペンハーゲン市のブースが多くの来訪者で賑わっていました。ブースでは軽食とワインが振る舞われるなど、アットホームな雰囲気の中、都市政策を紹介すると共に、同市の生産年齢人口が現在も増加を続け、今後当面は少子高齢化の進行を食い止めたことが PR されていました。その状況をいかにして作っているのか、その都市政策には多くの参加者の注目が集まりました。

来場者で賑わうコペンハーゲン市のブース

また、ビルバオ市では、総合的に都市の知名度を向上させることを目的に出展しており、ブースでは、観光、都市政策といったあらゆる分野について紹介していました。同市は 2010 年のリー・クワンユー世界都市賞の受賞都市であり、2013 年の Mayor's Forum の開催地となる予定です。

東京都が参加する ANMC21 のブースでは、ソウル市や台北市など、ANMC21 の加盟都市がブースの一部のスペースを利用して各々の都市を PR していました。東京都も、同ブースの一角で都の企業誘致施策を紹介すると共に、共同で環境事業に取り組んだ企業が PR を行っていました。企業誘致の施策等を PR するための新たな手法として、都市 PR の展示会に参加することも、検討に値するのではないでしょうか。

７．おわりに

今回２回目となる WCS は、国際水週間、国際環境サミットさらには東京都がメンバーとなっている ANMC21 総会と同時開催され、アジア･太平洋地域の主要都市のみならず、ヨーロッパ・アフリカ、アメリカからも多くの参加者が集まりました。

「プレミアムなフォーラム」という位置づけのとおり、シンガポール政府、政府系企業の幹部がそろって参加し、会場全体で各国の要人、有識者が参加してフォーラムやセミナーが数多く開催され会場を盛り上げるとともに、エキスポ会場のブースでは商談が活発に行われるなど、活況を呈していました。

会議の全日程には、すべてのメンバーにシンガポール政府からの連絡調整員（リエゾン・オフィサー）が同行、空港到着からホテルチェックイン、国内の視察から VIP 同士のミーティングのアレンジまで、サポート体制が整っているなど、国全体でこのイベントを成功させようというホスピタリティが感じられました。

また、お披露目直後のガーデンズ・バイ・ザ・ベイのインパクトの大きさやサイトビジットも合わせて、シンガポールの都市政策 PR の絶好の機会になったようです。

次回の開催は２年後の 2014 年７月。シンガポール政府やアジア各都市トップとの個人的な関係を強めるためにも良い機会なので、日本からもより多くの自治体の積極的な参加を期待します。

（足達所長　総務省派遣）
（長濱調査役　埼玉県派遣）
（伊藤所長補佐　浜松市派遣）